

# 藤原宮跡・藤原京跡の発掘調査

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1993年度には、藤原宮跡内で7件、京跡内で13件の調査を実施した(調査一覧参照)。宮跡内の調査は内裏東方官衙地区の計画調査および宮西方官衙地区の事前調査のほかは小面積の事前調査である。京跡内では、本薬師寺跡の計画調査を継続して実施した。他は市道飛驒木之本線建設に伴う調査をはじめいずれも道路建設・住宅建設等に伴う事前調査である。

## 1 藤原宮跡の調査

### 東方官衙地区の調査 (第71次)

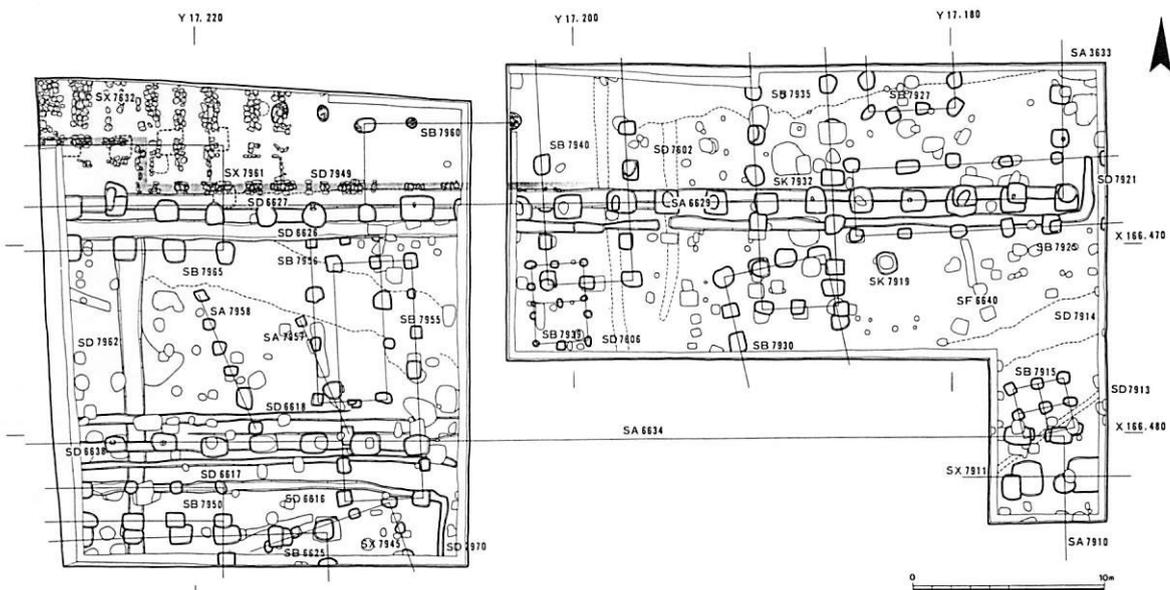
1987年度から、大極殿・内裏外郭の東方で継続的におこなってきた調査の一環である。これまでの調査で、内裏東外郭掘立柱塀 SA865と内裏東大溝 SD105の東側には、東西約66m、南北約72mの方形に掘立柱塀で区画された官衙が、南北に少なくとも3ブロック配置されていたことが判明している(以下、この区画を北から順に官衙A・B・Cとする)。

今回の調査では、官衙Bの区画の南辺および官衙Cの北辺の解明、官衙B・C間の宮内道路の様相の解明を目的とした。

検出した遺構は、古墳時代、7世紀中頃～藤原宮期直前、藤原宮期前半、藤原宮期後半の4期に区分される。古墳時代の遺構は、掘立柱建物3棟(SB7915、7930、7939)、掘立柱建物と推定される遺構1棟(SX7945)、掘立柱塀2条(SA7957、7958)、溝3条(SD7913、7914、7602)、土坑数基(SK7919、7932など)がある。これらの遺構は北で西にかなりの振れをもつ。

7世紀中頃～藤原宮期直前の遺構には、掘立柱建物9棟(SB6625、7925、7927、7935、7940、7950、7955、7956、7965)、掘立柱建物と推定される遺構1棟(SX7911)、溝4条(SD6616、7606、7962、7970)がある。これらの遺構の方位は藤原宮期のものと較べて、北で西に若干振れる。今回の調査により藤原宮中枢部と宮内官衙造営の前段階に、この地域には多数の建物が建てられていたという知見がさらに補強された。特に、SB7950、7955、7965は重複関係をもつSD6616の出土土器の年代から、宮造営に関連する建物である可能性が高い。

藤原宮期前半の遺構には、掘立柱塀4条(SA3633、6629、6634、7910)、溝4条(SD6618、6626、



藤原宮第71次調査遺構図 1:400

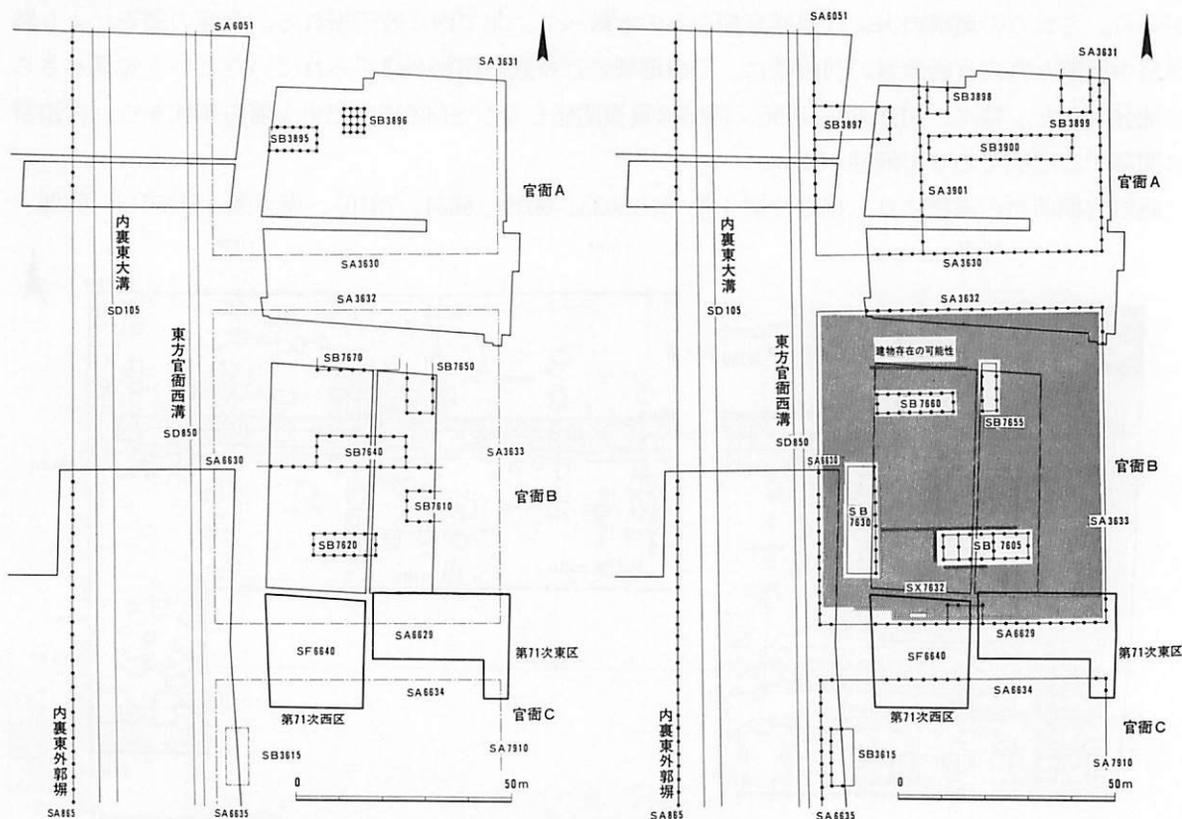
6627、6638)がある。SA6629、3633は官衛Bの南辺および東辺の区画塀、SA6634、7910は官衛Cの北辺および東辺の区画塀である。SA6629に改修の痕跡は認められない。東西溝SD6627、6638は、SA6629、6634に先行しこれらと同じ位置に掘られた地割り溝。宮内道路SF6640は官衛B・C間を東西に走り、その南北両側溝(SD6618、6626)の心々間距離は約9.9mをはかる。

藤原宮期後半には、区画塀は踏襲されるが、建物の建て替えがおこなわれ、官衛Bでは区画内を石で敷きつめるという大改修がおこなわれている。掘立柱建物SB7960はその中央間が官衛Bの東西中心にあたることから、SA6629と一体の桁行3間梁間1間の門の可能性はあるが、3間の目隠し塀であったとも考えられる。さらに、北接する第67次調査区より続く石敷SX7632を良好な状態で検出した。石組溝SD7949はSA6629の北雨落溝であり、官衛Bの東西中軸線から15.5m西で、北へ2.5m矩折れとなり、SA6629との間に石敷のない部分を形成する。

出土遺物は、藤原宮期および宮期直前の土器類が多量に出土した。また硯、緑釉壺、内面に漆の付着した須恵器壺も出土している。瓦は僅かであり、官衛B・Cに瓦葺きの建物の存在した可能性は薄い。木簡は7世紀中頃～藤原宮期直前の区画塀SA6645の南雨落溝SD6616の埋土から3点出土した。古墳時代の遺構からは、古墳時代前期の布留式土器が出土している。

今回の調査により、第67次調査で検出した石敷を含めた遺構が、藤原宮期後半に属することがほぼ確実となった。またその石敷の存在によって藤原宮の旧地表面の遺存を確認したことになる。

官衛Bの東辺を画する南北塀SA3633は、今回の調査と第41次調査の知見から全長71.2mであることが判明した。柱間1間が9小尺(2.637m)となるので、27間に割り付けられていたものと推定される。官衛Bの南辺を画する東西塀SA6629は、第58次調査の知見と合わせ、全長65.6m、1間9小尺(2.624m)として25間に割り付けられている。官衛Cの北辺を画する東西塀SA6634の全長、柱間ともSA6629と同じである。したがって、官衛Bは南北71.2m、東西65.6mの範囲であったことが確定した。



内裏東方官衛の変遷 (左：藤原宮期前半 右：藤原宮期後半)

その区画内は、藤原宮期前半に桁行7間梁間3間の東西棟SB7600を正殿として、その東妻柱列と柱筋を揃えて東南方にSB7610、東北方に南北棟SB7650、西妻柱列に柱筋を揃えて南方にSB7620、北方にSB7670を各々等距離で配置する。さらにSB7600の南側柱列の東西にとりつく掘立柱塀SA7644、7645によって区画内は北と南に2分されるなど、きわめて規格性の高い配置をとる。

藤原宮期後半には、区画塀は踏襲されるが区画の南4分の1の位置に桁行6間梁間2間の身舎に西庇のつく東西棟SB7605を正殿とし、北方に柱筋を揃えたSB7655、7660、SB7660の北方にさらに1棟(南雨落溝SD7675の存在から東西棟の可能性がある)、西方に南北棟SB7630を配置し、区画塀の内部を石敷SX7632で舗装する。これらの遺構はいずれも建物方位が北で西に振れる。このような官衙ブロックの性格づけは今後の課題であるが、同様の位置関係にある平城宮内裏東方官衙のありかたとの比較も重要な手がかりとなろう。

### 西方官衙地区の調査(第71-2・72・73次)

宮西南部の宅地造成と市営住宅建替えに伴う事前調査である。これまでの周辺での調査同様、この地区における建物の存在は希薄である。建物の方位などから推定して、藤原宮期と考えられる遺構は、わずかに第72次調査で検出した東西棟SB656、7722およびSX8055があるにとどまる。

藤原宮期直前の遺構としては、第72次調査区で掘立柱建物1棟・井戸1基・道路1条を検出した。SB8060は、桁行3間梁間3間の総柱建物で、建物方位は北に対して西に1～2°振れる。井戸SE8061は、掘方が東西4.5m、南北4m、深さ3.2mをはかり、井戸枠の上段は抜き取られていて構造は不明だが、下段の井戸枠を良好な状態で検出した。井戸枠は、長さ236～240cm、幅55～63cm、厚さ4～4.5cmの板4枚を立て、内側で上下二段に横棧を桟留めとし、外側も二段に藤蔓で縛って固定した構造である。北辺の側板外側の中央上寄りに「□信」の墨書がある。井戸からは完形品を主体とした多量の土器のほか、櫛・槌などの木製品、瓢箪、小動物の骨などが出土した。土器は藤原宮期直前に位置づけられる良好な一括資料である。

また先行条坊西二坊坊間路SF1082とその東側溝SD3318を検出した。SD3318は第7・69次西調査で検出した東側溝の延長上に位置するが、調査区南端から約5mのところまで東へ直角に折れて東西溝SD8065となりその先へは延びず、SD8065も約9m続いた後途切れる。

ところで、第72・73次調査地は、弥生時代前期から古墳時代にかけて存続した四分遺跡の中心にあたる。下層では、竪穴住居、多数の柱穴や杭を打込んだとみられる穴、大小様々な平面形と規模をもつ土坑群、素掘りないしは大型の甕を利用した井戸などを検出した。また、第3次調査で検出した南北溝SD570、666および第10次調査で検出したSD1600の延長を確認している。

出土遺物には、大量の土器・石器・木器・骨角器・金属器などがあるが、なかでも注目すべきものに第72次調査で出土した重圈文鏡系の小型仿製鏡がある。全体の約4分の1ほどの破片ではあるが、弥生時代後期の時期に伴うものと考えられ、割れ口の一部には丁寧に研磨を施した痕跡がみられる。直径4.2cmに復原され、鏡背には鈕を中心に擬銘帯、櫛歯文帯、縁の順に文様を配している。この形式の鏡は、小型仿製鏡のなかでも最古の一群に属し、これまでに朝鮮半島と、日本では九州から大阪にかけて十数例が知られていたが、今回の発見によりさらに1例を加えるとともに分布域の東限を広げることになった。

また、第71-2次調査では下層において、古墳時代前期の水田跡を検出した。水田は南東から北西にのびる畔が基本的に通り、これに直交する畔で仕切る。水口は切られていなかった。水田の大きさは、3.5×4m、4×7mなどまちまちである。第59次調査で検出した弥生時代後期の水田と合わせ、当地域における水田の変遷を考えるうえで重要な知見を得たことになる。(次山 淳)

## 2 藤原京跡の調査

### 左京七条二・三坊の調査（第74次）

市道飛騨木之本線の敷設工事にとまなう事前調査で、予定路線は木之本町の集落から西へ向い、飛騨町へ繋がる。今回は木之本町から西へ東西210m分を調査した。調査面積は約2160㎡である。調査地は左京七条三坊西南坪および同七条二坊東南坪に相当し、東二坊大路の検出が期待された。

**遺構** 検出した遺構は、東二坊大路とその両側溝、掘立柱建物9棟、掘立柱塀4条、井戸1基、柵状遺構1基、溝11条である。

**東二坊大路(SF250)** 東二坊大路の東西両側溝を検出した。東西両側溝の心々距離は約12mで、東側溝(SD249)は幅1.85m深さ45cm、西側溝(SD251)は幅2.25m深さ0.35mである。両側溝とも溝内には黄灰色の砂が充満し、溝内では水が常に流れていたと考えられる。この両側溝間の中央でも両側溝に並行する南北溝(SD252)を検出した。この溝は幅1.50m深さ0.3mで、埋土が暗褐色の粘土で、両側溝とは状況が異なる。しかし、溝の位置が両側溝間のちょうど真ん中にあることから、条坊に関わる遺構である可能性がある。

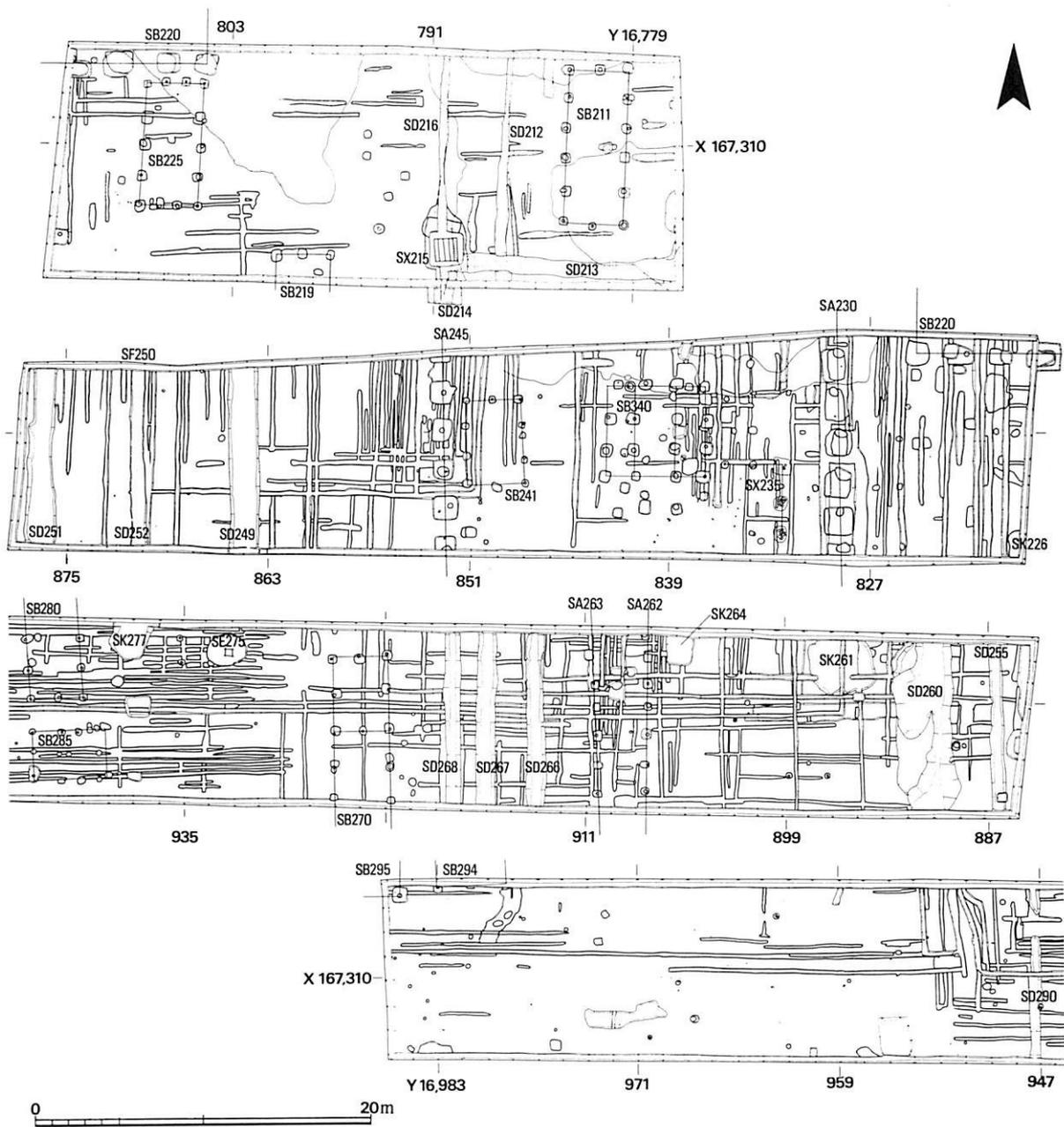
**左京七条三坊西南坪** この坪で注目されるのは、二重の区画施設を有することである。すなわち東二坊大路東側溝から約12m東に、1mを越える大規模な掘形を持った南北塀SA245があり、さらにSA245から24m東にも大規模な掘形を持った南北塀SA230がある。いずれも、柱間寸法は8尺等間で、5間分を検出し、さらに南北にのびる。このふたつの南北塀で東二坊大路の東の敷地を二重に区画したと推定できる。SA230の東側では東西に並ぶ大規模な掘形をもつ東西棟SB220の南側柱列を検出した。柱間寸法は8尺等間で桁行8間の東西棟と考えられる。発掘区の東ではT字形に流れる溝SD213、214、216と、その交点にある柵状遺構SX215とを検出した。この溝は当初は幅1m深さ約0.6mのL字形の溝(SD213、214)で、東西溝SD213は発掘区東端で幅を増す。後に両溝をなかば埋め戻して浅くし、溝の交点に柵状遺構を作り、北へ抜ける細い溝SD216を掘り加える。柵状遺構SX215は内法1.4mの方形、深さ0.2mで、底に5枚の板を敷き並べ、底板上面の周囲に溝をきって側板を立てる。溝から水を引き込んで水を溜める施設と想像される。なお、溝および柵内からは飛鳥IV期を主体とした土器が出土している。この坪では他にも4棟の小規模な建物と根石状遺構(SX235)を検出している。

**左京七条二坊東南坪** この坪では3棟の小規模建物、2条の南北塀、井戸1基、5条の南北溝を検出している。このうち南北溝(SD260)は幅2～3m深さを0.7mの大規模な溝で、藤原京造営直前の遺構と推定される。他にも4条の南北溝があるが、その性格は不明である。井戸(SE275)は、内法幅0.45mの方形に、横板を蒸籠状に組んだものである。

**遺物** 土器は飛鳥III期～V期の土師器・須恵器が出土し、瓦は東二坊大路西側溝から断片が少量出土し



藤原宮第74次調査位置図 1:5000



藤原宮第74次調査遺構図

たのみで、全体的に遺物の出土量が少ない。

まとめ 今回の調査では、予想通りに東二坊大路検出した。その両側溝の心々距離は12mで、大路中央にある南北溝の性格が注目される。左京七条三坊西南坪は大規模な塀によって二重に区画され、内部には大規模な建物が建っており、この坪の性格は単なる宅地とは考え難い。今後この周辺の調査が期待される。なお、柵状遺構 SX215が藤原京の時期に属するかどうかは微妙であるが、この坪の様相からして藤原宮期の施設と考えたい。左京七条二坊東南坪は遺構が希薄である。今後、今回検出した数条の南北溝の性格を検討する必要がある。

#### 本薬師寺の調査（1993- 3次）

本薬師寺では学術調査として一昨年に金堂基壇における予備調査、昨年には中門・南面回廊の調査を行っている。本年度は東塔の西南に、基壇を囲むようにL字形に307㎡の発掘区を設け、東塔基壇の

検出を主目的に調査を行った。その結果、東塔の基壇規模・形式を確定し、東塔西面中央から西方に延びる石敷の参道と東塔南方に東西に広がる瓦溜りを検出した。

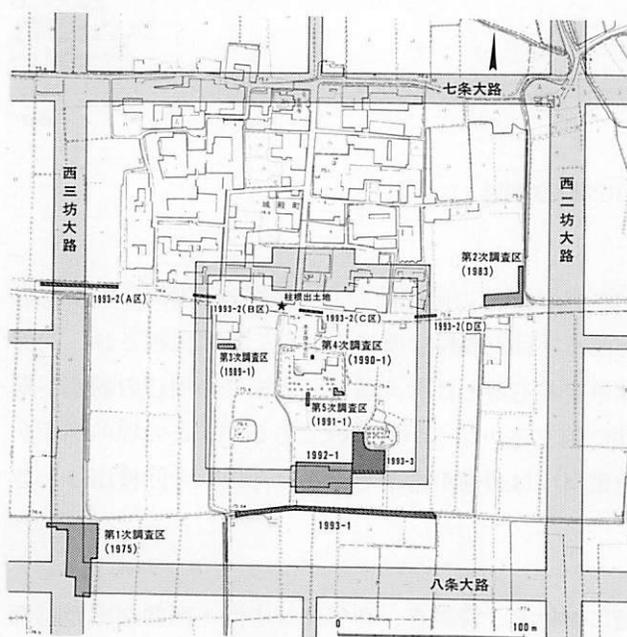
**遺構** 東塔基壇の遺存状況は良くない。基壇化粧はすべて抜取られていたが、基壇周囲の石組溝・石敷は一部の玉石を残す。基壇規模は地覆石の抜取り穴から14.2m四方と判明した。凝灰岩の破片が周囲から出土したので、基壇化粧に凝灰岩を使用したと推定される。南面と西面中央で階段地覆石の抜取り穴を検出したが、階段の幅および出は正確にはわからない。基壇周囲には玉石組の雨落溝がめぐり、基壇と雨落溝の間は石敷の犬走りとする。雨落溝は両側に玉石を立て、底にも玉石を並べる。幅約60cm、深さ約10cmである。西南部分では雨落溝が南へ抜け、南回廊北側溝へ流れ込んで塔周辺の排水を行っている。雨落溝の周囲にも石敷が広がり、全体として22m四方の方形に塔を取り囲んでいたと思われる。以上のような基壇の構成は平城京薬師寺西塔基壇の構成と等しく、規模も下表のごとく、近似値を示す。発掘区の東北隅で検出した参道は幅3.5mで塔心よりやや南へずれ、参道の南北縁に東西方向に玉石を一行に並べて、その間に玉石を敷き詰めている。

**遺物** 瓦は創建時のものが大量に出土した。6276A・6641Hの組み合わせが創建時の所用瓦で、小型瓦である6276E・6641Kの組み合わせも出土しており、これは裳階所用瓦の可能性もある。創建後の8世紀から9世紀にかけての瓦も出土している。土器は弥生から10世紀にかけての土師器・須恵器が出土した。その他に金属製品として金銅製垂木先金具・鉄釘・銅釘・銅環が出土した。

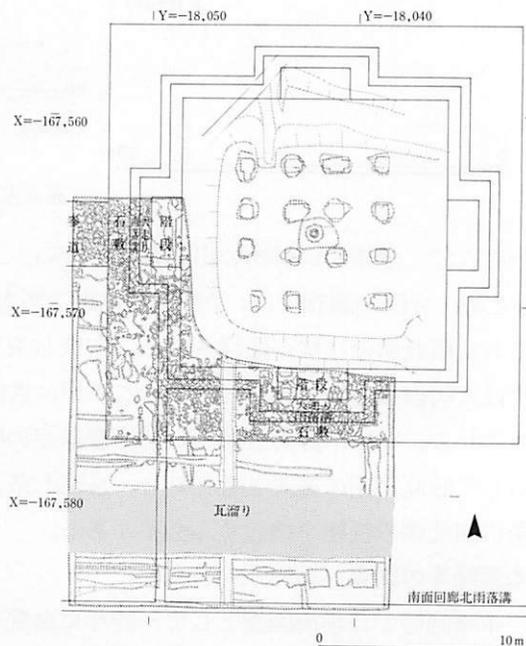
**まとめ** 今回の調査によって、東塔基壇の形式および規模が明確となった。遺構から裳階の有無は確定出来なかったが、小型瓦の出土したことにより裳階が存在した可能性が考えられる。創建時の瓦が大量に出土し、さらに創建以降も9世紀にいたるまでの各時期の瓦が出土しており、東塔は平城京遷都以降も当地に存在し、幾度か補修された可能性が高い。

	石敷規模	基壇規模	基壇高	犬走り幅	雨落溝幅	階段部分雨落溝 (幅・出)
本薬師寺東塔	22m四方	14.2 m	1.45m	約60cm	約60cm	5.8m・1.8m
平城京薬師寺西塔	20.75m四方	13.65m	1.4 m	約60cm	50~60cm	5.0m・1.8m

藤原京本薬師寺東塔・平城京薬師寺西塔基壇規模の対比



本薬師寺調査位置図 1:4000



本薬師寺1993-3次調査遺構図1:400

## 雷丘東方遺跡の調査（第71-9・10・14次）

当調査は県道榎原神宮東口停車場飛鳥線の拡幅工事の事前調査として実施したものである。調査地は、「雷丘」に推定される「城山」の東側に位置し、藤原京左京十二条三坊・十一條三坊にあたる。当調査区の南において行った調査（第1次調査1970年・明日香村教育委員会の調査1987年他）では、7世紀～9世紀の遺構群を検出し、「小治田宮」と記した墨書土器が井戸から出土している。そのため8世紀後半から9世紀の前半にかけての遺構は、小治田宮に関連するものである可能性が指摘されている。今回も7世紀～9世紀にかけての遺構群を検出した。3次にわたる調査総面積は1015m<sup>2</sup>である。遺構 検出した遺構は礎石建物2棟、掘立柱建物8棟、掘立柱塀5条、土塁状の高まり、大規模な溝3条、井戸3基、他に溝および土坑である。以下主な遺構を紹介する。

SB3030とSB3040はいずれも桁行3間、梁行2間の礎石建ちの総柱建物で、2棟は西側柱を揃えて並ぶ。SB3030は桁行総長7.38m、梁行総長5.75mで、SB3040は桁行総長8.1m、梁行総長7.0mである。SB3030の礎石据え付け穴から8世紀後半の土器および、丸・平瓦の小片が出土しており、8世紀後半に建てられたと推定できる。SB3020は桁行9間以上、梁間2間で、柱間寸法は桁行・梁行とも8尺等間の掘立柱建物である。柱穴からは7世紀後半～藤原宮期の土器が出土している。SB3050は桁行6間以上で、柱間寸法が8尺等間の掘立柱建物である。柱穴からの出土土器および切り合い関係から、7世紀後半以降に建てられ、8世紀末以前に廃絶した建物と推定できる。

SE3090は内法寸法84cmの方形の井戸で、掘形の底に15cm角の角材を井桁に組み、井桁の四隅に枘穴をあけて柱を立て、柱の外側に横板材を積む形式である。井戸最上層から出土した土器は平城宮土器編年V～VI期のものが主体で、その他にも桧皮が出土している。SD3100は幅6m、深さ30cmの溝で、6世紀末から7世紀前半の土器が出土している。SD3131は幅4.2m、深さ1.4mで、南側にある土塁状の高まり（SX3130）と併存する。溝内からは奈良時代末～平安時代初めの土器と瓦が出土している。SD3140は幅7.5m以上、深さ1.1mで、溝内からは7世紀後半から藤原宮期の土器が出土している。

SX3130は土塁状の高まりで、基底部の幅3.6m、上端部の幅2.3mの断面台形を呈し、東西方向に延びると思われる。桧皮が出土しており、桧皮葺の築地塀の基底部であった可能性がある。

遺物 土器は6世紀末～9世紀にかけての土師器・須恵器が出土した。瓦の出土量は少ないが奈良時代の瓦が主流を占める。金属製品として釘・刀子・鏃・鏃・紡錘車出土した。

まとめ 今回検出した遺構は大きく、7世紀前半期、7世紀後半期、8世紀後半～9世紀中頃の3時期に分けることができる。7世紀前半の遺構であるSD3100は掘割的な様相を示しており、推古天皇の小墾田宮との関連を検討すべきである。7世紀後半期の遺構としてSB3020・SB3050の2棟の長大な建物、発掘区中程で大規模な溝を確認したが、藤原宮期の十一條大路は確定できなかった。8世紀後半～9世紀中頃の遺構であるSX3130およびSD3131は「小治田宮」の北限を画する施設である可能性



藤原宮第71-9・10・13・14次調査位置図 1:5000



が高く、その敷地内に総柱の倉庫が建ち並んでいたこともこの地区を「小治田宮」とする傍証ともなり得る。今後のこの地域の調査成果が期待される。

#### 左京十一條三坊の調査（第71-13次 雷丘北方第4次）

過去3次にわたる調査によって、雷丘北方遺跡では掘立柱塀で囲んだ区画内に、四面庇付の大型建物である正殿を中心として、その東・南・西側に桁行17間、梁間2間の長大な建物をコ字形に配置していることがわかった。なお、正殿は左京十一條三坊西南坪のほぼ中軸線上に位置している。これらの建物は7世紀後半に造営され、A1～3期・B期という変遷がみられる（昨年度報告）。今年度は東限区画塀の外側の様相の解明（第1区）と、南辺に位置する長大な東西棟建物SB2850の全容解明（第2・3区）を主目的に調査区を設定した。

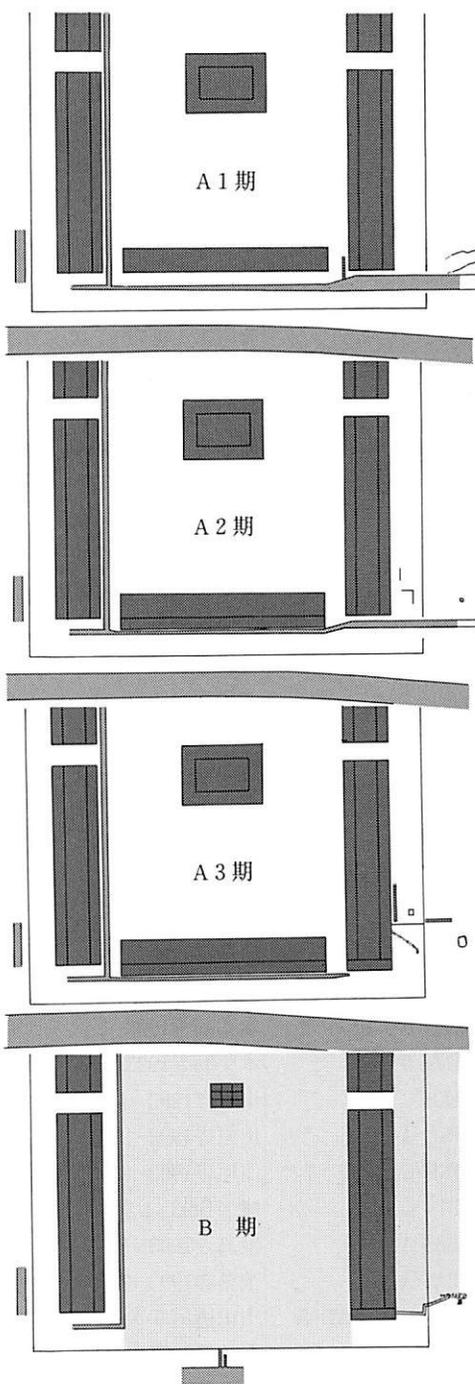
**第1区の遺構** 従来の時期変遷にしたがえば、A1期の遺構として東北東から西南西に向けて斜行する大規模な溝SD3240がある。SD3240埋没後のA2期の遺構として、木簡が出土した土坑SK3245があり、A3期直前に炭化物の混じる土によって、主に北半部を整地している。A3期の遺構としては井戸SE3250、B期の遺構としては石敷施設SX3255、石敷区画SX3256がある。

**第2・3区の遺構** A期の掘立柱建物SB2850は昨年度の報告で想定したように、桁行17間、梁間2間の身舎に南庇が付く東西棟建物である。柱間寸法は桁行・梁行とも8尺（2.35m）等間、庇の出も8尺である。庇の柱は南雨落溝SD2730を石組溝に改修した時（A2期）の黄色粘土による整地に伴って立てられており、庇はA2期に付加されたことが判明した。したがって、A1期にはSB2850の南側柱列は両脇の南北棟SB2670・SB2830の南妻柱列と柱筋が揃っていたことになる。

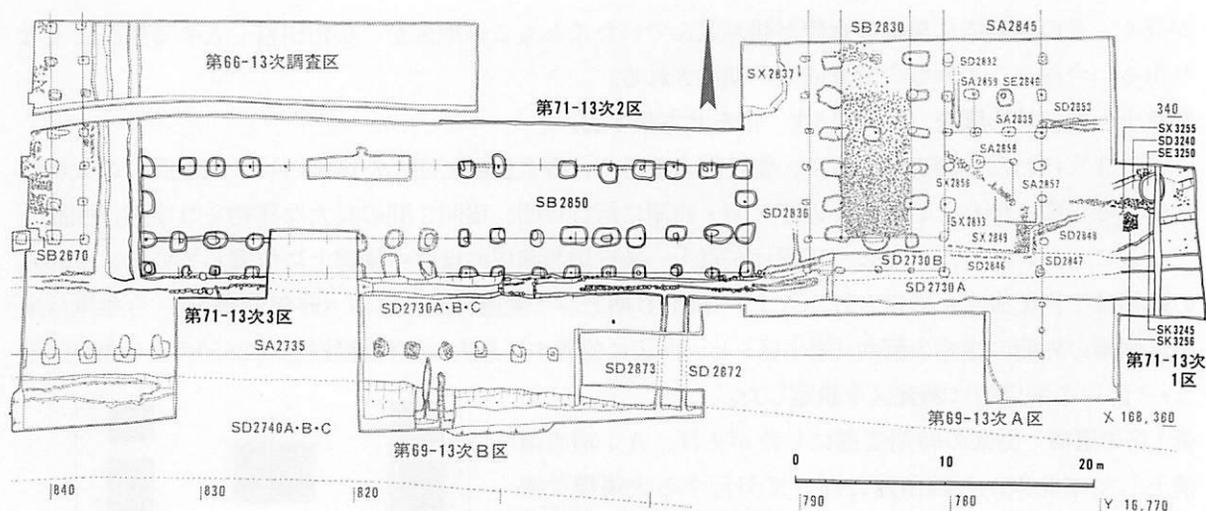
**遺物** 土器としては須恵器平瓶や土師器鉢類がめだち、全面に黒漆を塗った須恵器鉢も出土している。木製品としては全長7.5mの角材が出土した。材の上面には渡りあごの仕口があり、釘穴の位置からこの角材は柱間が8尺の建物の桁材であることがわかる。SB2850もしくは両脇の南北棟で使用した可能性がある。土坑SK3245からは表に「恵思和上三」裏に「祥□□」と記した付札木簡が出土している。

**まとめ** 掘立柱塀で囲まれた区画の東側には、井戸・石敷施設などが存在し、当遺跡がさらに東にのびることを確認した。SB2850の規模は昨年度の報告で想定した通りであることを確認し、南庇が創建後に付加されたものであることが新たに判明した。遺跡の性格は確定できないが、出土土器は上級階級が使用したものと思われ、出土木簡は仏教的色彩が強い。今後、遺跡の性格を検討する上で重要な資料となるであろう。

（島田敏男）



左京十一條三坊遺構変遷図 1:1500



藤原宮第71-13次調査遺構図 1:500

調査地区	遺跡・次数	調査期間	面積	備考	調査要因
6AJF-D	藤原宮 第71次	93.4.6~93.8.4	1,100㎡	宮東方官衙	計画調査
6AJL-B・C・D	藤原宮 第71-1次	93.5.6~93.7.23	895㎡	右京五条三坊	道路建設
6AJH-P	藤原宮 第71-2次	93.4.13~94.5.17	280㎡	宮西方官衙	宅地造成
6AJE-H	藤原宮 第71-3次	93.4.26~93.4.28	27㎡	右京二条一坊	個人駐車場
6AJE-R	藤原宮 第71-4次	93.5.17	6㎡	宮北面外周帯	個人住宅建替
6BNG-H	藤原宮 第71-5次	93.6.22~93.6.24	22㎡	左京八条四坊	個人倉庫新築
6AJB-A	藤原宮 第71-6次	93.8.2~93.8.9	100㎡	左京四条四坊	個人住宅建設
6AJE-J	藤原宮 第71-7次	93.9.16~93.9.17	30㎡	宮北面外周帯	個人駐車場建設
6AMH-J	藤原宮 第71-8次	93.10.21~93.10.22	15㎡	左京十一条三坊	個人住宅建設
6AMH-E・F・N	藤原宮 第71-9次	93.11.12~94.1.17	370㎡	左京十二条三坊	道路拡幅
6AMH-C・D・E・J・K	藤原宮 第71-10次	93.11.30~93.12.27	465㎡	左京十一・十二条三坊	道路拡幅
6AKG-M・N	藤原宮 第71-11	93.12.20~93.12.23	72㎡	甘樞丘東麓	駐車場建設
6AMK-D	藤原宮 第71-12次	94.1.10~94.1.12	73㎡	甘樞丘東麓	登山道建設
6AMH-J	藤原宮 第71-13次	94.1.10~94.4.7	434㎡	左京十一条三坊	道路建設
6AMH-E・F	藤原宮 第71-14次	94.1.24~94.2.28	180㎡	左京十二条三坊	道路建設
6AJF-Q	藤原宮 第71-15次	94.3.7~94.3.14	80㎡	宮西方官衙	個人住宅擁壁工事
6AJL-E・F 6AJG-T・U	藤原宮 第72次	93.8.5~93.10.28	1,030㎡	宮西方官衙	団地建替
6AJL-E	藤原宮 第73次	93.10.21~93.11.30	650㎡	宮西方官衙	団地建替
6AWG-H・P	藤原宮 第74次	93.12.1~94.3.24	2,368㎡	左京七条二・三坊	道路建設
6BMY-D	本薬師寺1993-1次	93.4.19~93.4.21	200㎡	伽藍南方	水路改修
6BMY-C・J 6AWJ-M	本薬師寺1993-2次	93.9.2~93.9.11	82㎡	寺域内	下水道埋設
6BMY-D	本薬師寺1993-3次	94.2.10~94.4.15	307㎡	東塔基壇西南	計画調査
5BKH-C	川原寺1993-4次	93.5.24~93.5.26	9㎡	南大門	個人住宅建替
5BKH-A	川原寺1993-2次	93.12.7~94.1.27	83.5㎡	電線等埋設	
5BKH-G	川原寺1993-3次	94.1.13	1㎡	個人住宅増築	
5BTB-C	橘寺1993-1次	94.1.26, 94.2.7	4.1㎡	電線等埋設	
5BAS-A	飛鳥寺1993-1次	93.5.31~93.6.8	36㎡	講堂	個人住宅建替
5BAS-A	飛鳥寺1993-2次	93.6.8~93.7.14	77㎡	講堂	庫裡改築
6AMC-U・N 6AMH-F	山田道第6次	93.7.9~93.7.30	282.5㎡		道路拡幅
6AMD-T・U	石神遺跡第12次	93.7.26~94.1.19	730㎡	計画調査	
5ZLK-F	上ノ井手遺跡1993-1次	93.10.5~93.10.6	2.5㎡	飛鳥資料館増築	

1993年度 飛鳥藤原宮跡発掘調査部発掘調査一覽